

沖縄戦跡・基地めぐり 参加報告

「沖縄を知ることから、日本の平和を考える」をテーマに沖縄戦跡・基地めぐりが日生協主催で開催されました。沖縄の戦跡と基地を見学することにより、沖縄戦の実相を学び現在の沖縄における諸問題を考えるとともに、これからの平和をめぐる課題について考え合う機会としました。

「一般コース」と「親子コース」での募集を行いました。

「親子コース」は子どもでも沖縄戦や基地問題についてわかりやすく学べる内容とし、親子で戦争体験の継承を考えることができるようになっていきます。



実地日: 2010年3月30(火)～4月1日(木)

参加者: 槌屋、森田、恩田(親子)、小張(親子)、富田・小室(祖父・孫)

[男性1名、女性3名、小学生1名、中学生2名]

<行程>

| | |
|-------|---|
| 3月30日 | <p>全体会→沖縄戦についての一人芝居と歌、「宮森小ジェット機墜落事故」紙芝居、夕食懇親会:琉舞、沖縄のうた、パーランクー、エイサー、カチャーシー等</p> <p>一般コース→「沖縄戦の体験を聞く:ひめゆり学徒隊」講師:島袋淑子さん</p> <p>親子コース→沖縄の紹介、「沖縄戦の体験を聞く:ひめゆり学徒隊」講師:宮城喜久子さん</p> |
| 3月31日 | <p>一般コース→辺野古・キャンプシュワブ、ガマ(糸数壕)、県立平和祈念資料館、平和の礎、韓国人慰霊の塔、ひめゆり平和祈念資料館、魂魄の塔(献花)</p> <p>親子コース→嘉数高台(普天間基地)、ガマ(糸数壕)、県立平和祈念資料館、平和の礎、韓国人慰霊の塔、ひめゆり平和祈念資料館、魂魄の塔(献花)、米須海岸</p> |
| 4月1日 | <p>一般コース→首里城、浦添城跡公園(普天間基地)、あっぷるタウン(コープおきなわ)見学、ふりかえり・わかちあい</p> <p>親子コース→首里城、対馬丸記念館、あっぷるタウン(コープおきなわ)、ふりかえり・わかちあい</p> |

<参加者感想>

強行日程だったと思います。時間に追われ、各見学時間が短く、平和の礎、ひめゆり資料館はもっとゆっくり見たかったです。資料館で特に印象に残ったのは、毅然として「あの戦争は間違っていた」という記述があったことです。首里城は、城内を早足で歩いただけで、何も見ていません。

「ひめゆり」の島袋さんのなんとお若いこと。あのエネルギーはどこからくるのか、壮絶な体験をされたとは、とても思えませんでした。「戦争は人災、人災は止められる」という言葉が深く残りました。ガイドの与儀さんの優しい中にも芯のお話がとても良かったです。特に、「他民族に支配されると独特の文化は育ち(発展)づらい」という言葉が印象的でした。

行ったことのない方、是非行ってみてください。そこで何を感じるかは、個人によると思います。



2009年12月下旬、沖縄観光をし(きれい、いい所ばかりの観光)、沖縄戦跡・基地めぐりと沖縄の歴史をもっと知りたかったので参加した。現地の生の声が“そのまま”聞けてよかった。百聞は一見にしかず。沖縄はいい所、一度は行こう!!美しい観光地ばかり見学するのではなく、沖縄戦地ゆかりの何か一ヶ所でもいいから見学し、又沖縄の歴史についても考えて欲しい。

他生協に比べ、参加料金が高額だったので、参加を広げるためにも検討を望む。



まだ沖縄へ行ったことのない娘に沖縄の歴史を知ってもらいたい、私自身もきちんと知っておきたいと思い、参加いたしました。タイムスケジュールいっぱいでしたがどの部分にもムダがなく、とても詳しく、わかりやすい企画ばかりでした。ガマの中へ入って、ガイドさんの説明がとてもわかりやすく戦争中の変なことを少しでも感じることができました。沖縄戦ー沖縄県民の想いー米国基地問題の、私ができる限りのつながりを周囲の人々に伝えていきたいです。親子で沖縄の歴史を学び、とても思い出深い春休みになりました。

はじめて沖縄に行き、戦前・戦中・戦後の跡地を分かりやすくガイドしていただきとても良かったです。沖縄県平和祈念資料館で、自分の目で見て、触れて、感じて、その時代に自分が吸い込まれていくかのように、苦しく、大変だったということを知ることができて、とても感動しました。米国基地問題について現地の方々の熱い想い、戦争中の生活の厳しさ、ひめゆり学徒隊だった島袋さんの話等を周囲の人々に伝えていきたいです。沖縄の人の気持ちはまだよくわからないけれど、沖縄の人のために何ができるか考えていきたいと思います。一般コースでよかったです。



小生年齢 76 才(昭和 8 年生)であり、沖縄戦は小学 6 年生、疎開先で旧制中学受験準備中の時です。京浜工業地帯の川崎に住んでいまして、小学校 2 年生の時太平洋戦争開戦、3 年生でシンガポール陥落(小学校で紅白の菓子配給あり)、4 年生で本土初空襲(当たらない高射砲と黒っぽい中型機撃撃)、5 年生春田舎に疎開、6 年生で終戦と文字通り銃後の小国民でした。



沖縄戦の悲劇は心痛の極みであり、悔しさ、無念さとして少年の心に刷り込まれ現存しております。その後戦後の沖縄諸事情は更に悲惨さを知らせ小生にとって沖縄は観光先ではなく、胸痛む遠い記憶を揺さぶるものであります。今回は直接戦跡と向き合うと云う事で孫(中学 2 年生)と参加させて頂きましたが、想像を超える悲惨さは語り部の方の生々しい体験談と共に胸締めつけられるものであります。若い世代に語り伝えて行く為にもこの様な企画は大変有意義であると思います。

戦跡・基地めぐりとありましたが、基地は遠望のみで少々物足りません。特に辺野古が含まれなかった事は残念でした。全体の悲惨さの中にあっても、何かホッとさせるエピソードを紹介できなかったでしょうか(住民を守るための知念半島非武装交渉、当時としては軍部に反する事ながら非戦闘員に投降を勧めたグループ等)。反戦、平和、反核、勿論大賛成ですが安保と核抑止力で守られながらの現況との整合性はあるのでしょうか？戦争は悪である。どちらの正邪もありません。この事を今更ながら痛感しております。

最近、普天間基地がよく話題になることと、沖縄に行ったことがなかったので参加した。内容は充実していたのだが、如何せん時間が足りなかった。特に平和祈念資料館の時間が足りなかった。ひめゆり学徒隊だった宮城さんの講演が良かった。次があったらまた行ってみたい。印象に残っていることは、系数ガマ内部、暗闇の世界、沖縄戦についての一人芝居、講演、懇親会。「亡骸の頂きに平和は咲き誇る」ということを周りの人々に伝えていきたい。

日本が行った戦争について、常々学習し二度と過ちを犯してはいけないと考えている。南部平和委員会主催の戦跡巡りには、毎年参加しているが、広島・長崎・沖縄にはどこも訪れたことはない。戦争は、未だに世界のどこかで起こっている。今の子どもたちが万が一にもかっこいいと思ったら大変なことになる。昨年暮、濟州島に行き、何故か、沖縄とイメージをダブらせていた。いざ到着してみても私のイメージのミスに気がついた。そうだ、沖縄戦があったので琉球王国の名残は見当たらないのだ。でも、赤や色とりどりのハイビスカスが私達を迎えてくれた。ひめゆり学徒隊の島袋さんは、ご高齢とは思えないようなパワーで体験を話してくださった。追体験しているように迫ってくるものがあった。二日目、系数アブチラガマの中に入った。そこが生活空間であり、病院でもあり、慰安所でもある広大な空間だが真っ暗で、じめじめして、歩くのも困難だった。生死を分けたチビチリガマ・シムクガマも行って話を聞きたかった。教育の恐ろしさや、たくさんの住民が犠牲になったこと、朝鮮人軍夫や慰安婦問題等も忘れずに語り継がなければならない。No more American bases. No more war!

